

## 太い分枝が存在する脳動脈瘤に対してフローダイバーター留置術を施行した2例

### Two cases of flow diverter placement for cerebral aneurysms with large branches

赤路 和則<sup>1)</sup> 吉田 啓佑<sup>1)</sup> 木幡 一磨<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中科

〔目的〕太い分枝が存在する脳動脈瘤に対して flow diverter 留置術を施行した2例を経験したので報告する。

〔症例1〕77歳、女性。右外転神経麻痺で発症。未破裂右内頸動脈-遺残原始三叉動脈分岐部動脈瘤を認めた。遺残原始三叉動脈は neck 近傍の瘤壁より分岐していた。経過観察していたところ、右外転神経麻痺悪化、徐々に増大、2年後に最大径13mmとなったため、治療する方針とした。脳動脈瘤 neck 部での遺残原始三叉動脈分岐部を含めた右内頸動脈 balloon 閉塞試験で、椎骨動脈から脳底動脈遠位への血流良好が確認できた。Pipeline を脳動脈瘤遠位から近位にかけて右内頸動脈に留置。術後経過は問題なく、右外転神経麻痺が軽減した。2年半後の DSA で脳動脈瘤は完全に消失した。〈BR〉

〔症例2〕48歳、女性。くも膜下出血で発症。最大径10mmの破裂性左内頸動脈後交通動脈分岐部瘤を認めた。後交通動脈は neck 近傍の瘤壁より分岐しており、径は P1 とほぼ同等であった。同日、balloon assist & double catheter technique で塞栓術を施行した。後交通動脈を温存し neck remnant で終了、術後経過は問題なく、3か月後の DSA で残存脳動脈瘤増大を認めた。4か月後に Pipeline を脳動脈瘤遠位から近位にかけて左内頸動脈に留置。術後経過は問題なかった。2年半後の MRA で後交通動脈径は P1 より細くなり、脳動脈瘤は残存しているものの縮小している。

〔結語〕太い分枝が存在する脳動脈瘤に対する flow diverter 留置術では、側副血行良好であれば有効であると考えられた。